

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する子ども】



# きらきら

新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和5年1月31日発行

## やさしさがあふれる

園長 青木博子

節分が近付いてきました。今年の節分は2月3日（金）です。

節分という言葉には、「季節を分ける」という意味があります。昔の日本では、春は一年の始まりとされ、特に大切にされていたため、春が始まる立春の前の日、つまり冬と春を分ける日だけを節分と呼ぶようになりました。節分は、「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味をこめて、悪いものを追い出す日です。当園でも準備が始まっています。担任が鬼の登場する絵本を読み聞かせたり、節分のお話をしたりしています。

年少組の部屋を見たら、年中児の子どもが、自分で制作した鬼のお面をかぶり、「がおーっ」などと言いながら、暴れています。その鬼たちに向かって、年少児が「鬼は外、福は内。」と言いながら新聞紙で作った豆をぶつけています。ぶつけられた鬼たちは、「やられたあーっ」と言いながら廊下に逃げ出します。豆をもった子どもたちは、「待て、待て。」と追いかけます。そんな中、部屋の中をのぞくと、一人の子が一生懸命に豆を拾っていました。私も一緒になって拾いました。たくさんの豆が集まったので、

「たくさん拾えたね。園長先生は園長室に戻るね。」

と言うと、その子が私の方を向いて、こう言ったのです。

「園長先生、鬼に会わないといいね」

ありがとう。園長先生は怖がりだから、鬼に会わないようにと心配してくれたのね。きっと大丈夫だよと思いながら、園長室に向かいました。

別の時間に、年長児が鬼になり切って職員室や廊下で大きな声を出していました。年中児は一人一人が鬼のお面を作り、そのお面を付けて、思い思いの表情で大きな声を出しています。こわい鬼になり切っています。私に気付いた鬼たちが、「がおーっ」「悪い子はいないか！」と言いながら、近付いてきました。私は、「こわいーっ」と言いながら、身をすくめるふりをしました。それを見て、さらに鬼たちの声が大きくなります。大きな声で威嚇した後、鬼は別な場所へと去っていきました。

すると、その中の一人の鬼がもう一度私に近付いてきます。私のすぐそばに来ました。何をするのかなどと思っていると、その鬼はお面をはずして自分の顔を見せながら、こう言ったのです。

「園長先生、ぼくだよ」

ありがとう。園長先生、鬼じゃなくて、人間のぼくだよ。だから、怖がらなくても大丈夫だよと言ってくれたのですね。その優しい鬼と別れて、私は園長室に戻りました。

幼稚園には、本当に優しい鬼と優しい人間たちばかりがいました。

節分の日、また園内に「鬼は外、福は内」というかわいらしい声が響くはずですよ。

あちらにもこちらにも鬼がいます

